

Empirical Study of Minimum Wage in Japan

虞, 尤楠

<https://hdl.handle.net/2324/4474925>

出版情報：九州大学, 2020, 博士（経済学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（3）

氏名	虞 尤楠		
論文名	日本の最低賃金の決定要因および影響に関する実証分析 (Empirical Study of Minimum Wage in Japan)		
論文調査委員	主査	九州大学	教授 浦川 邦夫
	副査	九州大学	准教授 堀 宣昭
	副査	九州大学	准教授 山崎 大輔

論文審査の結果の要旨

本論文は、日本の最低賃金の決定要因ならびに最低賃金が労働者の賃金や厚生に与える影響について、パネルデータを用いた実証研究を行っている。本論文は6つの章から構成されている。第1章は、最低賃金の発展の歴史を整理した上で、日本の最低賃金制度を他国の制度と比較し、その特徴と問題点を考察している。第2章は、日本の都道府県別パネルデータをもとに、地域別最低賃金の決定要因を分析しており、従来の先行研究で十分に検証されていなかった「隣接地域の最低賃金の変化」、「生活保護基準の変化」、「自然災害」などの影響を検証している。第3章では、日本と中国の最低賃金の決定要因について両国のパネルデータをもとに比較・検討し、日本は中国と比べて、経済情勢の変化が最低賃金に与える影響が小さい点を指摘している。第4章では、日本における保育士や幼稚園教諭の低賃金ならびに人手不足の状況を踏まえ、地域別最低賃金の引き上げが同職種の賃金水準に一定の影響を与えているかについて、都道府県別パネルデータをもとに検証している。賃金関数の推定結果より、都市部、地方ともに、最低賃金の引き上げの正の効果は十分に確認できなかったと結論づけている。第5章では、地域別最低賃金の引き上げが労働者の主観的な厚生（幸福感や健康感）に与える影響について、『全国就業実態パネル調査』の個票データをもとに、Difference in Difference (DID)推定による検証が行われている。計量分析の結果によると、主に男性については、最低賃金の引き上げは、制度の影響を実際に受けた労働者の幸福度を増加させ、健康問題を減少させる傾向が見られた。第6章では、これまでの章で得られた分析結果を踏まえ、公共部門において必要とされる政策として、長時間労働により最低賃金未満の賃金水準で働く労働者の実態についての調査・検証ならびに一連の「働き方改革」が最低賃金近傍で働く低賃金労働者の実際の働き方に与えた影響の調査・検証などの提言を行っている。

本論文は最低賃金の研究分野において、これまで十分に取り上げられていなかった分析課題に注目し、パネル・データをもとに実証分析を行ったものであり、現実の雇用政策・福祉政策への一定のインプリケーションを提示したという点で評価される。

以上の点から、本論文調査会は虞尤楠氏から提出された論文「日本の最低賃金の決定要因および影響に関する実証分析」を博士（経済学）の学位を授与するに値するものと認める。